

新潟県角田山における植生荒廃地の把握および復元候補地の選定

○伊藤竜太郎 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：植生復元、登山道、佐渡弥彦米山国定公園、角田山

わが国では古来から信仰を目的とする登山が盛んであった。しかし 1931 年頃から信仰登山が次第にすたれ、レクリエーションを目的とした登山が普及し始めた。佐渡弥彦米山国定公園に指定されている新潟県・角田山（約 482m）は信仰登山もみられるが、気軽に山頂まで登れる山であり登山中に植物が多く見られることから、他の地域における山と同様に多くの人々が踏みつけ等による植生の損傷・裸地化、表土の浸食・流出、登山道の荒廃が問題となっている。そのため、新潟県事業として山頂付近を中心に植生復元が近年に実施された。角田山は独立峰に近いことにも由来して登山道が多く、登山道周辺の復元はあまり進んでいないので、今後の候補地の選定が必要となる。そこで現地調査により、登山道の路面状態の把握、登山道に対する断面の図化（浸食の把握）、土壌硬度の測定を行い、自然環境の実態を明らかにした。また、登山道の開削や利用の歴史や、それぞれに保全活動等に関わっている市民組織の現状から、優先的に植生復元を行うべき候補地を選定した。

愛知県弥富市におけるカワウによる景観被害の調査研究

○栗生美紀 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：野鳥、カワウ、景観被害、自然保護

日本に生息するカワウ (*Phalacrocorax carbo*) は、主に本州以南の河川や湖沼などの環境で採食を行い、集団で繁殖し、樹林に営巣地をしばしばコロニー状に形成する。一時期、激減した個体数は保全策により増加した。その後、漁業被害や大量の糞による樹林の被害が全国的に問題となり、各地で被害軽減対策が行われている。本研究では愛知県にある弥富野鳥園に生息するカワウを対象とした。愛知県弥富野鳥園は 1983 年に初めてカワウの園内での繁殖が確認されたあと急速に増加し、現在では生息数が 10,000 羽を超える。1990 年代に入ると繁殖が確認されたエリアで樹木が枯れ始めたが、愛知県では生息数に対して被害の把握・駆除がされていない。その理由として、被害樹木は野鳥園内が多く、人家からある程度離れているため、景観に影響を与えることが少ないと推測されていることと、匂いや騒音、あるいは経済的被害が大きくないため住民の関心が少ない事が挙げられる。そこで、景観被害の実態を現地調査により行った。また、全国の被害事例を文献調査により収集し、弥富市のカワウ問題に最適な被害軽減対策の比較検討を行った。地元住民の、カワウに対する関心を持つ契機になれば幸いである。